

## 中国語圏 Semester 留学便り 11月 引率教員版

早いもので、南開大学での留学生生活も残り一ヶ月となりました。  
11月の出来事や学生たちの様子をお伝えします。

### 【行事】

10月下旬から11月中旬にかけては、漢語節（中国語祭）ということで、主に漢語言文化学院の学生主宰のイベントが毎週のように開催されていました。本学学生有志も、11日（金）の美食祭に参加し、他国の留学生・中国人学生とグループを作り、料理の腕を競い合いました。

(<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary111111.html> 参照)

25日（金）には、漢語言文化学院院長杯・留学生バドミントン大会が開かれ、本学代表としてシングルス男女各2名、ダブルス1組が参加し、女子シングルスとダブルスは見事に優勝しました。惜しくも敗れてしまった学生も、みな健闘していました。

(<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary111125.html> 参照)

18日（金）には、國學院の学生独自のイベントとしてのバドミントン大会が開催されました。四チームに分かれて、勝敗を争いながら親睦を深めていました。

イベントばかり開かれているようですが、勿論、授業は連日行われています。南開大学の創始者である張伯苓は、学業や生活態度に厳格さを求めつつ、スポーツや音楽の授業、課外活動にも力を入れていました。徳・智・美・体の総合的発展をはかるという建学以来の理念が、南開大学の校風を作っています。

### 【学修面】

21日（月）には、二度目の試験が行われました。担当教員によると、学力の伸びは目覚ましいそうです。教えがいがある、という声も聞きました。

普段の宿題とは別に、複数の中国人にインタビューし、その内容をまとめるというレポート課題も出されました。質問に答えてくれる人を見つけるために、学内を彷徨っている学生に遭遇したこともあります。

### 【その他】

下旬になると、最低気温が零下数度という日が出現し始めました。宿舎の部屋によっては寒さが厳しく、一部の学生は暖かい上階に引っ越しをしました。部屋や建物内には暖気

(スチーム暖房)があるのですが、ないよりマシという程度の暖かさです。校舎で使用されている旧型の暖気の方が暖かく、中国の技術革新も一部では順調に進んでいないようです。

12月初めにはHSK(漢語水平考試)があり、帰国前には最後の試験もあります。残りの時間を無駄にせず、勉学に励んで欲しいと思います。その一方で、南開大学の校風にしたがい余暇活動も楽しんで、充実した日々を送ってくれることを願っています。

引率者・佐川 記